

# 利活用ミーティング活動報告

平成 29 年 12 月 19 日

第6回石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップ  
(略称:幌向再生ワークショップ)

# 1. 利活用ミーティングの目的とH29活動状況

## (1) 利活用ミーティングの目的

- 幌向再生地の利活用促進に向けて、地域連携による景観整備手法、環境学習・体験学習等の企画、情報発信・PR手法の検討を行う。

## (2) H29活動状況

- H29年度は、3回のミーティングを開催した。
- また、ふらっと南幌主催、ワークショップ共済による地域イベントを開催した。

### 幌向再生ワークショップ

- 各検討部会からの報告形式による開催
- 現地視察会などは共同開催
- 開催頻度：基本的に年1回

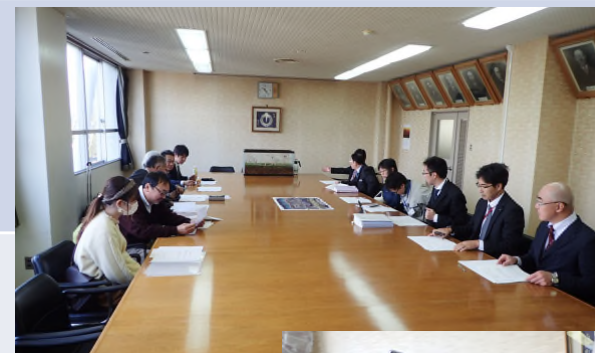
### 湿原再生ミーティング

- 遮水対策の整備効果検証
- 湿生植物の導入計画
- モニタリング調査

### 利活用ミーティング

- 地域連携による景観整備手法
- 環境学習・体験学習等の企画
- 情報発信・PR手法

開催日	開催場所	主な議題
H29. 6. 13	南幌町役場	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 利活用ミーティングの進め方</li> <li>● 利活用ミーティングで議論する内容</li> </ul>
H29. 8. 10	南幌町役場	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報提供手法について</li> <li>● 環境学習等の企画案について</li> <li>● 園路・展望施設等の施設整備について</li> </ul>
H29. 11. 30	南幌町役場	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域イベントの実施結果について</li> <li>● 駐車場、案内看板、展示物について</li> <li>● 次年度の検討課題・活動予定</li> </ul>



第3回ミーティングの様子 (H29. 11. 30)

# 1. 利活用ミーティングで出された主な意見

	主な意見	対応状況
地域イベント等の開催	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 湿原だけの単独のコンテンツとすると興味ある人が少なく、インパクトが弱い。防風林やまちづくり等に興味ある人をたくさん集めて、その中から湿原ファンを増やしていけるとよい。[1]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● フットパス、馬頭琴、俳句会等の企画と合わせてイベントを実施。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● イベントを実施した際に、参加者の動きを良く観察し、参加者のつぶやきに耳を傾けることが重要である。アンケートを行うよりもリアルな意見が出る。[3]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 俳句会から参加者の視点を推察。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 南幌周辺の古写真を公募してみてもどうか。特に昔の湿原の様子が確認できるとよい。また、昔の町について知る人に、当時の人と湿原のつながりなどについて話してもらうのもよい。[2]</li> <li>● 再生地から夕張川まで歩いて、利用の可能性、景観などを確認する機会があるとよい。[3]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今後の取り組みとして検討。</li> </ul>
幌向再生地の景観	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ゼンテイカ等が生育する原生花園的な景観とする区域があってもよい。重点区域は学術的価値が高い区域となるので、一般向けの区域と分けてもよい。[1]</li> <li>● 原生花園的な種を導入すれば、魅力アップにもつながる。[2]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域連携による導入エリア案を設定。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 再生地に訪れる際に、人工的なものが視界に入らないよう留意する必要がある。フォトモンタージュ等を作成して検討するとよい。[3]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今後の取り組みとして検討。</li> </ul>
施設整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 現在の駐車スペースは、湿原区域からの視界に入り条件としてはよくない。駐車スペースを人目に触れないようにする必要がある。[1]</li> <li>● 駐車スペースは、車が半分隠れるだけでも効果がある。中低木を植栽することでも十分効果がある。[3]</li> <li>● 駐車場は飛び地で整備するのも良いと思う。[2]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● フォトモンタージュを作成。今後、取り組み方法を検討。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● イベントを催すときなどに使用できる広場のような場所を拠点として整備するとよい。[2]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今年度のイベントでイベントスペースを設置。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 再生地全体を望むことができる視点場を、堤防上に2,3地点程度、高水敷に1地点つくるのが良い。[2]</li> <li>● 案内看板は景観を壊す懸念があるため、必要最小限にした方がよい。[3]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今後の取り組みとして検討</li> </ul>

主な意見文末の[●]は、第●回ミーティングで出されたを意見であることを示す。

# 1. 利活用ミーティングで出された主な意見

	主な意見	対応状況
情報発信	<ul style="list-style-type: none"><li>● フォーラム、シンポジウム等は年1回は開催できるとよい。開催目的、期待する効果を明確にすることが必要。[1]</li><li>● 期待する効果として、理解者の増加、注目度のアップ、将来像の共有、将来の人材育成、技術力向上、マスコミを通じたPR、南幌町のPR等が挙げられる。特に、理解者の増加、地域での認知向上、将来像の共有が主目的となる。[1]</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 地域イベントを通じて、事業説明・PRを実施。</li></ul>
	<ul style="list-style-type: none"><li>● 幌向地区は現状で裸地なので、将来イメージを共有することが重要。活動を推進する勇気・気づきになる。[1]</li><li>● ブランド化・価値化という視点が重要である。「環境面の価値」と「まちづくりの価値」の2つの側面を意識することが重要。[1]</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>● 将来イメージの共有化のためのミズゴケ展示を作成。南幌町内に常設展示予定。</li></ul>

主な意見文末の[●]は、第●回ミーティングで出された意見を指す。

# 2. 地域イベントの開催

- 10/22（日）にふらっと南幌主催による『湿原再生フットパス』を開催した。
- 約4kmのフットパスのほか、馬頭琴・喉歌演奏、ミズゴケ移植体験、俳句会などの催しを行い、総勢32名の参加を得た。

## 幌向湿原めぐりフットパス

幌向湿原再生地を観察しながら歩く特別コース・フットパスのご案内です  
ミズゴケ移植体験に馬頭琴の演奏と吟行、晩秋の一日を楽しみましょう

平成29年10月22日（日）  
《受付》午前9時～9時半  
南幌町ふるさと物産館  
「ビューロー」1階  
(南幌町中央1丁目2番22号)  
《会費》500円



### スケジュール

- 9:00 受付開始 南幌町ふるさと物産館「ビューロー」1階  
9:30 会場の新夕張川湿原再生地へ各自乗り合わせて移動  
10:00 開会挨拶 ふうと南幌代表 濱田 暁生  
来賓挨拶 江別河川事務所 所長 足立 文玄  
講演「フットパスの心得」 エコ・ネットワーク代表 小川 巖  
(北海道地域学習講座 eco-アカデミア派遣)

石狩川下流幌向地区自然再生地の概要説明

- 11:00 フットパス開始「特別コース 湿原めぐり 約4km」 — 俳句を詠みながら —  
start 夕張川湿原再生地 → 水田地帯 → 町保有幌向湿原 → 新夕張川湿原再生地  
12:00 昼食・・・弁当と飲み物は各自ご用意下さい  
12:30 馬頭琴の演奏と喉歌 馬頭琴・喉歌奏者 嵯峨 治彦  
\*モンゴル発祥の馬頭琴と喉歌 (ホーミー)  
\*プロ奏者として全国的に活躍されている嵯峨さんの演奏で贅沢なひとときを！  
13:00 ミズゴケ移植体験 (別紙資料参照) — 移植したミズゴケはやがて湿原の一部に —  
14:00 晩秋の吟遊俳句会 (別紙案内参照) 日本俳人協会会員 藤田ひろし  
15:00 解散 (敬称略)

- 昼食の準備をお忘れなく！
- 歩きながら俳句を書き留めるための筆記用具をご用意下さい

【主催・連絡先】特定非営利活動法人 ふうと南幌 事務局  
〒069-0237 北海道空知郡南幌町栄町4丁目4-19  
Tel : 090-3891-6675 (近藤)  
E-mail : a\_boom1993@yahoo.co.jp (市川)

【共催】石狩川下流幌向地区自然再生ワークショップ  
【協力】国土交通省北海道開発局 札幌開発建設部 南幌町  
【支援】北海道環境生活部環境政策課 北海道地域学習講座 eco-アカデミア



ホロムイ lindow  
「幻影ほろむい七草」より



### ミズゴケ移植体験

～みんなで幌向湿原を再生しよう！～

移植方法

- 1 穂の上は、パットに入れておきます。
- 2 穂をポットから取り出します。
- 3 穂をポットから取り出します。
- 4 穂をポットから取り出します。
- 5 穴のすまみに土を入れて穂を固定します。
- 6 ミズゴケを穂の根元に固定します。

移植する植物

ハチジョウブ サワギキョウ コバギキョウ

## 幌向湿原晩秋の吟遊俳句会 \*全三十一句と短評\*

《総評》  
自然を散策する吟行句会では花鳥詠を詠うことが多い。今回の吟遊俳句会も形は同じだが、目的は湿原再生に向けた取組への参加と、文芸としてどう捉えられるか探る句会でした。結果は詠草のとおり共鳴する句が沢山揃いました。  
湿原と再生、風土の自然や農業、協賛する馬頭琴演奏会等々、興味を持って皆さんが参加されたので、目的意識を持った吟行句会の意義を確認することが出来ました。  
俳句初心の方も多く、推敲の余地ある句もありますが、伝えたいことは明らかにされています。佳句も多くあります。再度、鑑賞してみてください。拙い指導ですが少しだけ手を入れましたので参考として下さい。どれも伸びしろの有る句ばかりですから、この後もどうぞ句作を続けてください。  
皆様ありがとうございました。  
句会進行 藤田ひろし

寒風にミズゴケ栄え冬をまつ まこと  
季重ねの解消「水苔の生きるは盛ん冬来たり」  
湿原に命を託しアキアカネ まこと  
「し」で切ることで湿原に託すのは我々人間も。簡潔ながら深い表現  
秋深し集い歩くは湿原の海 うくむら  
「は」は説明になる。「秋深し集いて歩く湿原の海」紅葉の海わたる風人の列 うくむら  
全景を良く見られています。整理して「紅葉の木道わたる人」より俳句らしくなります  
湿原や歴史を語る隅の秋 よりこ  
「隅の秋」が難しい。「湿原や太古の歴史語る秋」再生地来るといいなタンチョウも いわお  
祈りも込めて湿原再生を平易に詠う。  
「丹頂も来るかと湿原再生す」を用意してみたが、原句の方が訴えは大きい

## 2. 地域イベントの開催

幌向再生地の概要説明



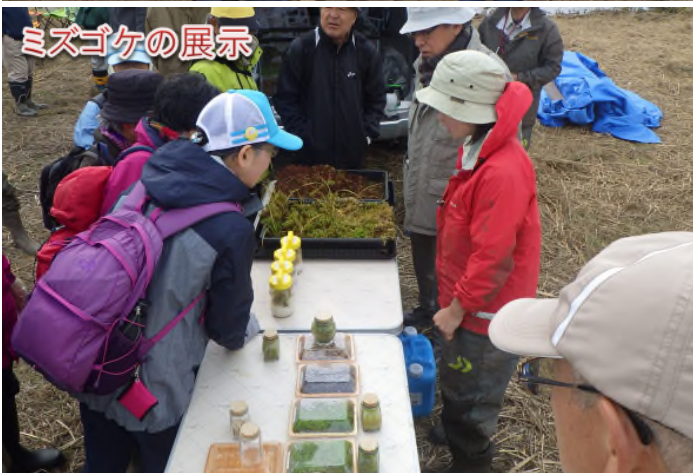
幌向湿原の散策



馬頭琴・喉歌の演奏



ミスゴケの展示



ミスゴケ移植体験



ミスゴケ移植体験



ミスゴケの配布



ミスゴケの配布



ミスゴケのトリセツ



# 2. 地域イベントの開催（参加者の視点）

アキアカネ、タンチョウ、渡る雁、とんぼ天国、雁の声  
 ミズゴケ栄え、七草想い、よし原のうねり、枯れススキ、むらさき野菊、みどりのビート、苔の緑、ホロムイ  
 ゲの影、ヨシの穂、水苔のみどり、山遠く、紅葉の海、など

## 《総評》

自然を散策する吟行句会では花鳥詠を詠うことが多く、今回の吟遊俳句会も形は同じだが、目的は湿原再生に向けた取組への参加と、文芸としてどう捉えられるか探る句会でした。結果は詠草のとおりに共鳴する句が沢山揃いました。  
 湿原と再生、風土の自然や農業、協賛する馬頭琴演奏会等々、興味を持って皆さんが参加されたので、目的意識を持った吟行句会の意義を確認することが出来ました。

俳句初心の方も多く、推敲の余地ある句もありますが、伝えたいことは明らかにされています。佳句も多くあります。再度、鑑賞してみてください。拙い指導ですが少しでも手を入れましたので参考として下さい。どれも伸びしろの有る句ばかりですから、この後もどうぞ句作を続けてください。皆様ありがとうございます。

句会進行 藤田ひろし

寒風に「ミズゴケ栄え冬をまつ まこと

季重ねの解消「水苔の生きるは盛ん冬来たり」

湿原に命を託し「アキアカネ まこと

「し」で切ることで湿原に託すのは我々人間も。簡潔ながら深い表現

秋深し集い歩くは湿原の海 うくむら

「は」は説明になる。「秋深し集いて歩く湿原の海」

紅葉の海わたる風人の列 うくむら

全景を良く見られています。整理して「紅葉の木道わたる人」より俳句らしくなります

湿原や歴史を語る隅の秋 よりこ

「隅の秋」が難しい。「湿原や太古の歴史語る秋」

再生地来るといいな「タンチョウも いわお

祈りも込めて湿原再生を平易に詠う。

「丹頂も来るかと湿原再生す」を用意してみたが、原句の方が訴えは大きい

学舎に原野を使う秋の頃 そうきち

面白い視点なのでもう少し分かり易く

「木虫水(き・むし・みず)秋の原野に学びけり」

風駆ける栄枯湿地に秋思ふ そうきち

「栄枯」を活かしたい、中七音も守りたい

山粧う野山の錦我忘れ すみこ

「山」と「山」の重ねが勿体ないの

「山粧う錦の綾に包まるる」

秋思・冬隣にいつくしむ すみこ

「冬隣り水苔を手につくしむ」

幌向の土地の記憶を渡る雁 かずお

雁に託して幌向を愛する気持を表出

鳥渡る武四郎が見し山遠く あきお

来道(蝦夷地)六回の松浦武四郎。来し方行く末を見やる姿に、季語「鳥渡る」が見事に決まります  
 湿原にモンゴルの風聴く馬頭琴 あきお  
 草原のイメージを幌向に置き換えて、中七音はまもりたい。「モンゴルの風湿原に聴く馬頭琴」

秋の野に七草想い再生す ともこ

七草と再生の関係が分かりにくいので

「秋の野に幌向七草あればこそ」情緒的ですが

あきあかね我を追いかけて頭上舞ふ ともこ

皆が体験した実景と実感でした

冬枯れの田んぼにしかと命の芽 たけお

もの命はこうして繋がる。写生かつ心象の句

よし原のうねりを鳴らす冬の風 ひさなお

草木の動きと音で冬がうまく捉えられている

枯れススキ秋の終わりの独りごち ひさなお

季重ね解消「枯れススキ君も居らずに独りごち」

あるいは「会の終わりの独りごち」なども

枯葉中むらさき野菊とささき けいこ

楚々とした秋らしさを優しく表現される

晩秋にみどりのビートあざやかに けいこ

ビートの生命力をあざやかに切り取る

秘めごとを苔の緑に含ませる とくこ

苔のしっとり感が云い得て妙、秘めごとを沢山含んでいることだろう

其れは何処ホロムイスケの影を追うとくこ

ホロムイスケに託して湿原の再生を祈る具体性がよい

ヨシの穂を揺らせて響く馬頭琴 あきら

ヨシの穂を揺らすのはあたかも馬頭琴の音の波、詩情豊かな秋の句

秋の日にとんぼ天国祈ります かずお

「祈ります」が曖昧なので

「秋の日やとんぼ天国かがやかす」

秋風や雁の声さそう幌向路 トモコ

中七音は守りたい。「秋風や雁鳴き誘う幌向路」

水苔のみどりしずかに秋想う トモコ

水苔のしっとり感が誘う秋の憂いです

湿原にのど歌ひびき空高く 長一郎

のど歌のひびきによる素晴らしい演奏を皆さんと共有しました

秋の野に白馬伝説馬頭琴 スミコ

爽籟や湿地かすかに鼓動せり

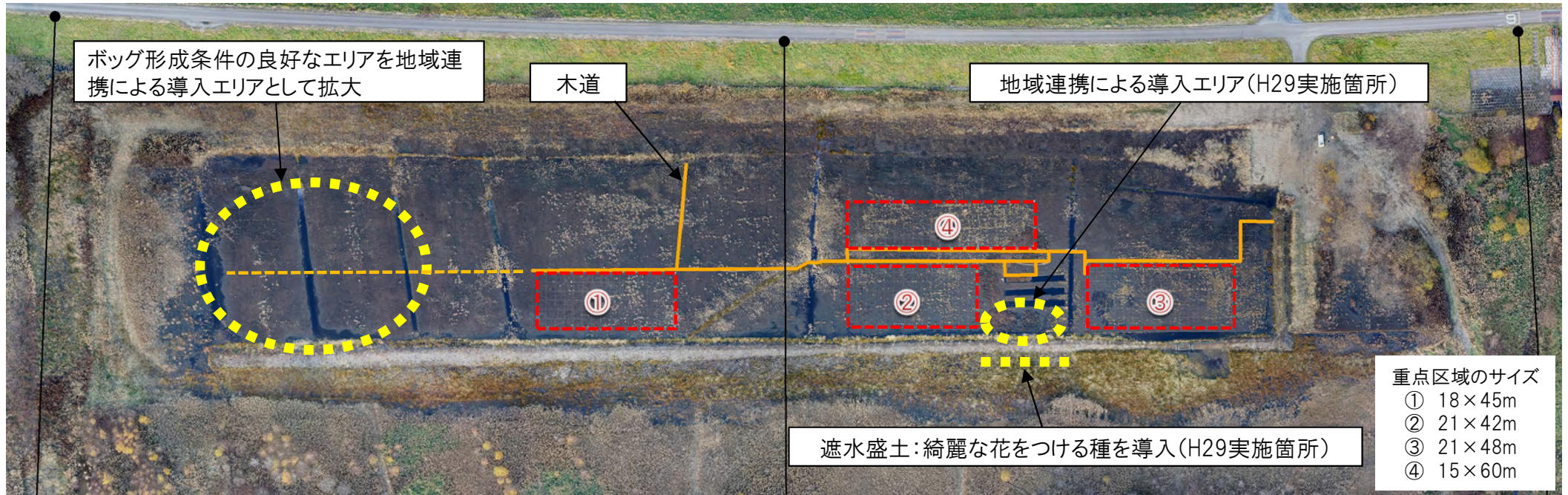
幌向の水苔次代に枯れやらす ひろし

喉歌や吾彼突き抜け天高し

# 3. 幌向再生地の景観

## ○原生花園的な景観

- 地域イベントにおいて、地域連携による導入エリアを設定し、ノハナショウブ、サワギキョウ、コバギボウシ等、綺麗な花をつける種を導入した。
- 今後、重点区域以外の区域（通常区域）については、地域連携による導入を推進する。



現時点で意見が出されている案であり、今後変更となる可能性がある。





# 3. 幌向再生地の景観

## ○景観整備の留意点

- 現状の幌向再生地は、堤防上・再生地から河川側への視界は遮蔽物がなく、かつての湿原を思わせる景観となっている。
- 幌向再生地の景観整備にあたっては、人工物等の存在感に配慮する必要がある。

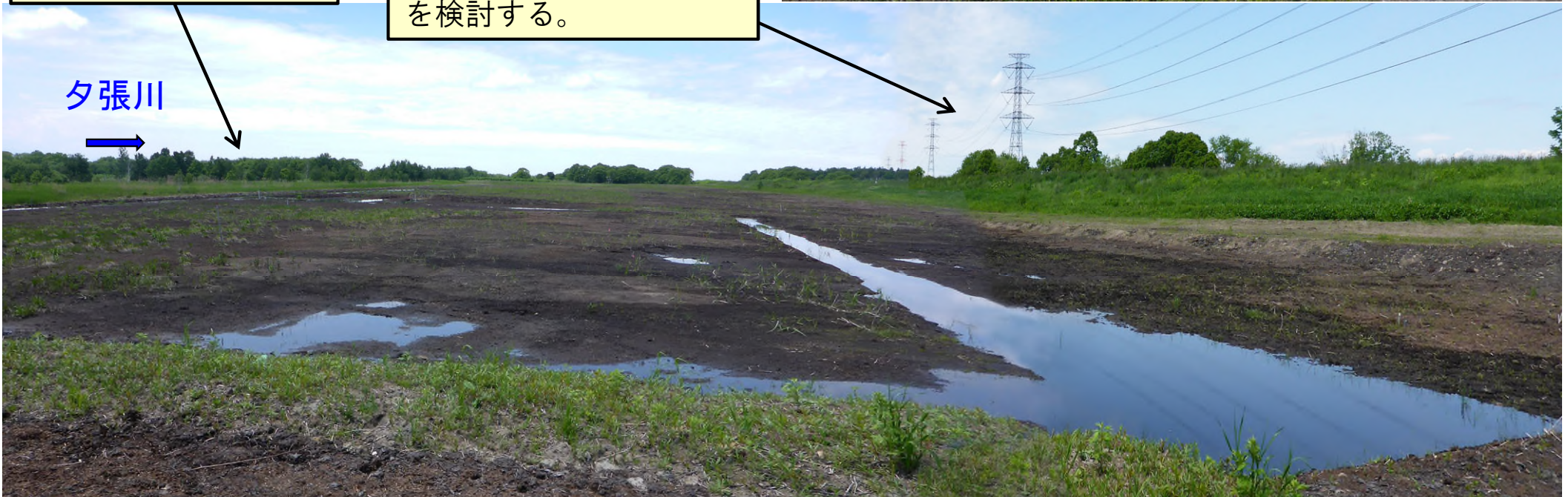
再生地から河川側は、人工物等がなく、視界を遮らない。

植樹等により、人工物の湿原景観への影響緩和策を検討する。

駐車スペースには、治水面に影響を及ぼさない範囲で、植栽等による車の遮蔽方法を検討する。



夕張川



案内看板等は必要最小限とし、再生エリアには人工的な要素を持ち込まないよう工夫する。

# 5. 情報発信

## ○ミズゴケディスプレイ

- 幌向地区自然再生の将来イメージを地域住民等と共有するため、展示物を作成した。
- 説明パネル、冊子等の配布物と合わせて、南幌町内（生涯学習センターなど）に常設展示予定。



展示イメージ



展示イメージ

### 設置場所・日頃の管理

- 設置場所 …直射日光などで水槽内の温度が高くなりすぎないところ（30℃以下に保つ）。
- 日頃の管理…3日に1度くらいの頻度で、霧吹きでミズゴケの表面を湿らす程度。



- ミズゴケディスプレイは、ミズゴケ生育方法などを示したチラシ、事業パンフレット等と合わせて展示する。

# 6. H29活動成果と次年度の課題

ミーティングの目的	H29活動成果	次年度の課題
地域連携による景観整備手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 幌向再生地における景観整備の課題を抽出した。</li> <li>● 駐車スペース、案内看板などの人工物が再生エリア内の視界に入らないよう配慮する必要性を確認した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 駐車スペース等の人工物の遮蔽方法の検討</li> <li>● 案内看板等の配置、デザイン等の検討</li> <li>● 視点場の整備方法の検討</li> <li>● 湿原景観と調和した景観形成手法、木道等の施設レイアウトの検討</li> </ul>
環境学習 体験学習 地域イベント等の企画	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ふらっと南幌主催、ワークショップ共催の地域イベントを開催。</li> <li>● ふらっと南幌フットパス100回記念フォーラムにおいて、事業PRを実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域イベントの継続開催</li> <li>● 参加人数拡大、近郊からの参加</li> <li>● 視点場整備のための、参加者の動き、意向等の把握</li> <li>● 古写真などの公募</li> </ul>
情報発信 PR手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ミズゴケ展示物の作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 説明パネル、配布冊子等、ライトアップ等の展示内容の充実</li> <li>● 日常の管理</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 河川管理者、ふらっと南幌のホームページによる情報発信</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● リアルタイムの情報発信（ホームページ、ニュースレター等の効果的な活用）</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● パンフレット等の作成(過年度)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 配布実績の拡大</li> <li>● 学校教育等での活用</li> </ul>

課題などは利活用MTにて協議のうえ、湿原再生MTと連携し、協力して進める。